

県 広 報

特集/ 21世紀をめざす
富山県農業の展開

とやま

TOYAMA PREFECTURAL REPORT



INTERVIEW

ひとアズとやま



目指すは羽生七冠王！

小学生将棋名人戦優勝 中平 寧君

「決勝で勝った瞬間は、やった！と思いました」と、三月に行われた第二十一回小学生将棋名人戦で、全国の小学生の頂点「こども将棋名人」に輝いた中平寧君（富山市立長岡小学校五年）。

お父さんの手ほどきで五歳から将棋を始めた中平君ですが、小学生になってから星井町児童文化センター将棋クラブに入部してめきめき上達。同将棋クラブでは、北野悦郎さん（県将棋連盟副支部長）が指導する北野研究会に所属し、明日のプロ棋士を目指す小学生たちとともに腕を競い合っています。「三年生になる頃には、お父さんにも勝てるようになります。それから県内の大会で優勝するようになって、将棋を指すのがだんだん楽しくなってきました」。

さて、小学生名人戦は西日本と東日本の各ブロックに分かれての予選からスタート。西日本ブロックから出場した中平君は、七戦全勝という完璧な内容で予選を通過。東京のNHKホールで行われた決勝トーナメントでは、東日本ブロックから勝ち上がった東京の小学生を連破して、見事栄冠を手中にしました。「予選では危ない対局がありました。決勝では思いどおりの将棋が指せました。両親に「おめでとう」と声をかけられたときは、とても嬉しかったです」とこりこり。

中平君が将棋クラブに行くのは月二回。時間があれば北野先生の家で指導してもらいますが、それ以外はもっぱら自宅で将棋の研究をしているそうです。「先生には、いつも終盤の力をつけなさいと言われてるので、詰め将棋をたくさん解くようにしています」。

放課後はいつも外で遊ぶことが多いとのこと。「初めの頃はファミコンでよく遊んでいましたが、今は外でサッカーをしたりして遊ぶ方が好きです」と微笑むその表情は、将棋日本一というよりもどこにでもある普通の小学五年生。将来は羽生さんのような強い棋士になりたい、と力強く語ってくれた中平君。近い将来、羽生七冠王と対局する雄姿を見たいものです。



優勝トロフィーを手に
(左：二上達也日本将棋連盟会長)

6 CONTENTS

6月号もくじ

とやま遊学感 県民公園頼成の森	1
ひとアズとやま 全国小学生将棋名人戦優勝 中平 寧君	1
クロースアップ ①富山一日地方分権委員会 ②彩りとやま緑化祭'96開幕 ③「白川郷・五箇山合掌造り集落」 世界遺産登録記念式典	2
特集「二十一世紀をめざす富山県 農業の展開」	4
PINUPPTOYAMA 写真/滝川邦彦（日本写真家協会会員） 詩/山本哲也（富山現代詩人会会員）	8
ふるさとみてある記（大島町） ①絵本コロ・アルカディア ②大島町こでまりの会 ③大島グリーンスクエア	10
エッセイ/大野博美 （富山県ナチュラリスト）	12
シリーズ/彩りとやま緑化祭'96Ⅱ 国民文化祭とやま'96Ⅱ	13
県からのお知らせ 暮らしのアドバイス	14
とやまの祭事記/夜高行燈 （庄川町）	16



▲ 満開の桜並木



▲ 大自然の中でフィールドアスレチック



▼ 森の中の遊歩道

緑の散策スポット — 県民公園頼成の森 —

レポーター：富山県総合衛生学院 下坂千登勢さん
(表紙の人)

今回私が訪れた県民公園頼成の森は、県を代表する自然観察と森林浴のメッカ。さっそく、頼成の森の野越さんに園内を案内してもらいました。

小高い丘の上には、百五ヘクタールもの広大な森林公園です。ここには総延長十六キロの遊歩道が整備されていて、小一時間散策するもよし、丸一日かけて本格的に自然と触れ合うもよし、いろんな楽しみ方ができます。また、日曜や祝日には、ナチュラリストによる自然解説も行われるそうです。私も今度ゆっくり森林浴を楽しみたいと思いました。

さて、頼成の森の最大の目玉は、ハナシヨウブやスイレンなど五百八十品種、約七十万株が植栽されている水生植物園。毎年六月中旬下旬に開催されるハナシヨウブ祭りは、多くの人々で賑わいます。私が訪れたときは、水生植物園が彩りを見せるには時期が早かったのですが、その代わり満開の桜が出迎えてくれました。

このほか、フィールドアスレチックやバーベキュー広場、芝生広場などもあり、家族連れにも最適。皆さんも、頼成の森で大自然を思いっきり満喫してみてください。



▲ 夜の森を体験できる「森のオールナイトシアター」

場所	砺波市頼成
休園日	なし（ただし、森林科学館は火曜日、祝日の翌日が休館）
電話	☎ 0763 (37) 1540

※6/21～6/30は、とやま緑化祭のテーマ会場として、ハナシヨウブ祭りのほかイベントを開催



森林科学館 ▶

●4月22日 人類の遺産を未来に

「白川郷・五箇山合掌造り集落」
世界遺産登録記念式典



▲三村代表による決意表明（白川村）



▲鏡開きで登録を祝う（上平村）

岐阜県白川村、白川郷の白川八幡宮に場所を移して行われた記念式典では、三集落の代表が「貴重な文化遺産を一致団結して継承していきたい」と決意表明。続いて、記念祝賀会が上平村の「ささら館」で開催され、世界遺産登録を契機に富山・岐阜両県共同で製作したハイビジョン映像を鑑賞した後、鏡開きで登録を祝いました。また、五箇山民謡保存会による民謡披露がお祝いムードに花を添えました。今後両県および三村が協力して、人類の遺産となった「合掌造り集落」の保全・継承に努めていきます。



▲記念碑を囲んで協力を誓う（平村）



▲田畑裏を囲んでの世界文化遺産保全会議（平村）

昨年十二月にユネスコの世界遺産に登録された「白川郷・五箇山の合掌造り集落」の世界遺産登録記念式典が四月二十二日、平村、上平村、岐阜・白川村の三村をつないで行われました。

平村相倉集落で行われた記念碑除幕式では、中沖知事、梶原岐阜県知事、中村平村長、岩瀬上平村長、高桑白川村長、地元集落の子どもたちが記念石碑を除幕。続いて、合掌造り民宿で第一回の飛越世界文化遺産保全会議が両県知事および三村長が出席して行われ、「茅葺きなどの技術を伝承するため、専門職を養成すべき」、「統一したパンフレットの作成と観光ボランティアの育成を」など、活発な意見が交わされました。

●4月19日 “地方集権”の推進に向けて

富山一日地方分権委員会



▲熱心に聞き入る議員の聴衆

政府の地方分権推進委員会の「一日地方分権委員会」が四月十九日、富山第一ホテルで県民ら約五百人を集めて行われました。

これは、同委員会が中間報告を橋本総理に提出したことを節目として、あらためて地方分権に対する地方の意見を把握するために行ったもので、委員会側から七名、地元からは中沖知事、正橋富山市長、富樫立山町長ら九名が出席。まず、諸井委員長が「地方分権に対して広く国民の理解を得ながら、年内に具体的な指針の勧告に向け審議を進めたい」とあいさつ。続いて中沖知事は、県が市町村に三百を超える事務移譲を行ったことに触れながら、「地域づくりのために必要かつ十分な権限は本来地方団体に集中してあるべき」という「地方集権」の考えを強調しました。

このほか地元出席者からは、「地方への権限移譲の際には、地方財源の確保が必要（正橋富山市長）」、「地域に密着した公的施設には、地域に応じた基準があつていい（金岡富山女子短期大学教授）」などの意見が出されました。

これらの意見を踏まえ、同委員会によって地方分権の推進に向けたより強い働きかけがなされることが期待されます。



▲“地方集権”を強調する中沖知事

●4月20日 花と緑のエキスポ、

華やかに開幕

全国都市緑化とやまフェア「彩りとやま緑化祭'96」開幕

▼華やかなパレード



公園の花の見頃をつないで開催。百三十五日間にわたって花と緑のメッセージを全国へ、そして未来へ向けて発信します。

第十三回全国都市緑化とやまフェア「彩りとやま緑化祭'96」が四月二十日、砺波チューリップ公園で開催しました。

同公園のメインゲートで行われたオープニングセレモニーでは、中沖知事、由良建設省都市局審議官、佐藤高岡市長、岡部砺波市長らが、テープカットで開幕を祝いました。開会式は、砺波市文化会館大ホールで約千二百人が参加して行われ、主催者を代表して中沖知事が「県民総参加のこの緑化祭を、日本一の花と緑の県づくりを進めるうえでこの契機としたい」とあいさつ。砺波市内の小学校の児童たちが、「花と緑のメッセージ」を会場に呼びかけた後、砺波市の声楽家、安全千重子さんや地元中学生らが、緑化祭のテーマソング「いつまでも」を大合唱してフィナーレを飾りました。

同フェアは「まち・ひと・くらし 花ある人を育てる緑」をテーマに、四つのテーマ会場（砺波チューリップ公園、県中央植物園、県民公園太閤山ランド、県民公園類成の森と二つのメイン会場（高岡古城公園、高岡おとぎの森））を会場とする。

県政の動き

平成8年4月11日～5月10日

- 4月16日 父母のための就職ガイダンス
- 4月15日 知事のましまわり（富山市 ～16日）
- 4月19日 富山一日地方分権委員会
- 4月20日 第13回全国都市緑化とやまフェア開幕（～9月1日）
- 4月22日 白川郷・五箇山合掌造り集落世界遺産登録記念式典 記念碑除幕式
- 4月24日 立山カルデラ砂防博物館（仮称）着工式
- 4月25日 全国花のまちづくりシンポジウム富山大会
- 4月26日 富山県中央植物園全面開園
- 4月28日 吉峰グリーンフェスティバル（～29日）
- 4月29日 銀座みゆき通り「チューリップカーペット」
- 5月7日 春の叙勲伝達式
- 5月8日 北陸新幹線建設促進富山県民総決起大会
- 5月10日 第47回富山県植樹祭



▲テーマソング「いつまでも」を合唱





▼美味しい米づくりを目指した土づくり（堆肥散布）



②日本一美味しい米づくり を目指して

シヒカリなど十三銘柄と並んで、最高級の「特A」にランクされました。これは、特定地域ではなく県全域を産地とするものとしては唯一の「特A」となります。

さらに、自主流通米の入札取引市場でも、他県の各銘柄が苦戦するなかで、富山コシヒカリは人気商品となっています。

これらは、農業者や農業団体の皆さんが、美味しい米づくりに取り組んできた努力のたまものといえるでしょう。

県では、美味しい米づくりを支援するため、「水と人の幸 富山米」をスローガンに次のような施策を展開しています。

- ①品質・食味と関係の深い水分、白さ、タンパク質の含有率などの改善目標値の設定と分析体制の整備
- ②品質・食味の分析結果に基づく農業改良普及センターを中心とした栽培管理指導
- ③有機物の施用など土づくりの推進
- ④年間を通じて「新鮮な今搾り米」を供給できるカントリーエレベーター（米乾燥調製貯蔵施設）の計画的な整備や、自然乾燥に近く火力を使わない除湿乾燥方式の推進

さらに、生産コストの引下げや農薬・化学肥料が環境に与える影響に十分配慮しながら、消費者ニーズに応えた良質な富山米づくりを推進していきます。

※稲（もみ）のまま貯えていた米を、必要なときに稲摺りして玄米にするもの



▲JAアルプス米地域連携型乾燥システム施設



特集 21世紀をめざす 富山県農業の展開



▲「改訂 アグロピア21」

ガット・ウルグアイ・ラウンド農業合意による農産物の輸入拡大や、新食糧法に基づく新たな米の流通制度の実施など、農業を取り巻く環境は大きく変化しています。

今後、一層の市場原理の導入や産地間競争の激化が見込まれ、農業・農村は大きな転機を迎えています。このような情勢を受けて、県では平成三年に策定した「二十一世紀をめざす富山県農業の展開」を「改訂 アグロピア21」を今年三月に改訂しました。

『改訂 アグロピア21』は、

- ①美味しい富山米の低コスト生産体制の確立
- ②稲作と園芸や畜産のバランスのとれた生産構造の実現
- ③地域や集落に適した営農体制と力強い農業経営の確立
- ④流通・消費動向に即したマーケティングの展開の促進
- ⑤住みやすく、活力に満ちた農山村の実現

の、五つを基本方針としています。

ここでは、富山県農業の現状を踏まえながら、これらの方針を実現するための県の取り組みを中心に紹介します。

美 味しい 富山米の生産

①評価の高い富山米

平成七年産の富山米は、消費地から高い評価を得ています。農林水産省食糧事務所調べの米の検査成績では、富山県は米の一等比率が全国一位（九四・九パーセント）となりました。また、日本穀物検定協会の食味ランキングでは、富山県全域のコシヒカリが新潟県魚沼地区の

園 芸特産物の 産地づくり

①園芸の現状

富山県の耕地は、その九六パーセントが水田であり（水田率全国一位）、平成六年の農業粗生産額の七九パーセントを米が占めています。一方、野菜などの園芸の生産額は一〇パーセント程度で、近年は自給率も低いのが現状です（野菜の県内自給率：三三パーセント）。

このため、米の生産に園芸を取り込んだバランスのとれた生産構造の実現を目指し、農家経営の安定を図るとともに、県民に良質・新鮮・安全な県内産園芸特産物の安定供給を行う体制づくりが必要です。

②園芸の振興のために

県では、園芸の自給率五〇パーセントを目標に設定しています。そのため、流通状況や自然条件等を考慮して重点推進品目を選定し、次のような戦略を練って作付面積の拡大を計画しています。

- ①米を専門的に栽培する農家や生産組織が、転作田の利用や労力の計画的活用により、園芸生産との複合経営を実践することに対する支援
- ②既存産地に対して、ハウス等の施設化による栽培期間の拡大や品質向上、作業の機械化等による省力化対策を支援し、規模の拡大を推進
- ③生産に必要な種苗を安定的に供給するシステムや、広域的な集出荷体制を目指した施設整備等についての検討
- ④県民に県内産の園芸特産物を広く知ってもらうためのPR活動の充実

特に複合経営については「改訂 アグロピア21」の中では、「米+白ねぎ」、「米+チューリップ球根」といったモデルを示し、園芸への取り組みを推奨しています。

▼うるおいある水辺空間（福光町）



▶特産王国とやまフェスティバル



県産食肉 ブランドの確立

(1) 県産食肉の現状

県産和牛は鮮紅色の色や肉質の柔らかさ、風味が売り物で、試食アンケート等でも高い評価を得ています。なかでも、「とやま肉牛」の銘柄は、特に品質評価が高いものに限りの名が付けられています。

しかし、平成三年の牛肉の輸入自由化は、国産牛肉へ大きな影響を与えており、今後は国際競争力のある高品質な肉専用種の増加が急務となっています。また、「霜降り牛肉」に代表される高級な黒毛和種の産地間競争も一層激化しています。

(2) 県産食肉の消費拡大とブランドの確立

県では、牛肉輸入自由化にさきがけて、婦中町に県肉用牛センターを設置し、県産牛肉の生産拡大に努めています。また、昨年八月には、県をはじめ生産者団体、消費者団体、流通加工業、飲食業など、二十二の団体からなる「県産肉販売促進協議会」が設置され、「丘の夢牧場ビーフフェア」「特産王国とやまフェスティバル」などのイベントを通じ、安全で高品質な「とやま肉牛」のPRと需要拡大に努めています。

- ① 小売り及び消費者ニーズの動向をとらえながら、付加価値の高い県産食肉の生産
 - ② 広告宣伝等により、県産食肉の知名度アップ、銘柄イメージの創造
 - ③ 市場調査等により小売り及び消費者ニーズと市場動向を的確に把握し、卸売市場、小売業、消費者等ターゲットを明確にした販売戦略の展開
- などの対策を積極的に進めることにしています。

● 集落ぐるみタイプ

集落ぐるみで合理的な土地利用を行い、兼業農家を中心に集落規模に見合った農業機械等を共同で所有する「集落営農組織」をつくり、低コスト化を図るタイプです。将来的には、組織の発展過程のなかで、担い手の育成や法人化を目指しています。

このため県では、従来農家ごとに所有していた農業機械を集落規模に応じて整備し直すことなどについて支援しています。

住みやすく活力に満ちた農山村づくり

(1) 農山村地域の現状

富山県は、立山連峰に代表される全国でも有数の自然（自然植生度本州一位）を誇っており、北アルプスから流れ出る豊かな水は、農山村地域を潤しています。また、「物の豊かさ」から「心の豊かさ」重視へ人々の価値観も変化してきており、豊かな水や緑に恵まれた潤いのある生活空間や伝統文化といった都市にはない農山村の良さが見直され始めています。

しかし、農村地域では農家と非農家の混住化や都市化の進展により、伝統的な「むら機能」の低下や豊かな自然の喪失が懸念されています。また、山村地域においては過疎化や高齢化が進み、農業の担い手不足から耕作放棄地が増加するなど活力の低下をきたしています。

(2) 活力のある農山村づくりのための

県では、若者等が定住しやすい条件とするための生活環境施設の整備等に対して支援を行っています。



▲集落での現地指導

明日を担う力強い 地域農業づくり

(1) 地域農業の現状

富山県は、他県と比べて兼業農家の割合が高く、また、高齢化も一段と進んでいることなどから、担い手不足が深刻な状況となっています。

これを解決し、地域の実情に合った力強い営農体制をつくるため、県では地域や集落での話し合いを通じた中核農家主導や地域ぐるみによる営農体制づくりを従来から進めており、現在五百十六の多様な生産組織が生まれ育っています。

(2) 力強い営農体制づくりの推進

目標とする営農体制は、大きく次の二つのタイプに大別できます。これらの営農体制を核として、平成十二年には、全農地に占める中核農家や生産組織の作業割合を、県全体の約六〇パーセントにする計画を立て、積極的な支援を進めています。

● 中核農家主導タイプ

地域ぐるみで土地利用を調整し、担い手となる農家（中核農家）が農地の貸借や農作業の受委託を進め経営の拡大を目指すタイプです。

県では、市町村農業委員会と農協が農地の貸借や斡旋を行う「農業銀行」活動や、受託農家を増やしながら担い手農家をグループ化する「中核農家集団」づくりを支援しています。

なお、作業割合とは別に、平成十二年には全農地に占める中核農家等への農地の集積割合を、現在の約二倍の一八パーセントにまで高める計画を立てています。



なかでも特にニーズの高い農村下水道は、平成七年度末で七十余の汚水処理場が完成し、四万七千八百人分の処理が可能となっています。また、平成十二年度には九万二千人分の処理ができるよう整備を支援していく予定です。

また、地域のコミュニティ形成や活性化を図るため、農村公園や農村環境改善センターを整備しており、現在、十七市町村で二十の農村環境改善センターが、地域の中心的な施設として利用されています。

一方、山村地域においては、利賀村や立山町、上平村などで、集落道路や多目的広場、特産物の加工・販売施設等の整備を行っています。今年度からは、砺波市と庄川町にまたがる中山間地域を「とやま山麓地区」として、また、利賀村・平村及び上平村を「五箇山地区」として、都市と農村との交流、定住条件の整備、就業機会の確保など広域的な地域連携を図った事業を展開することになっています。



▲農業排水処理場（氷見市）

農業は、人間の英知で自然を活用し、私たちにとって欠くことのできない食料を生産する重要な産業です。富山県においては、豊富な水と整備の進んだ土地、そして農業者のたゆまぬ生産活動を通じて、県民に良質・新鮮・安全な食料が供給されてきました。今後、富山県の農業が二十一世紀に向けてたくましく魅力ある産業として飛躍するためには、農業者をはじめ関係者の創意工夫やチャレンジ精神に支えられた努力が極めて重要です。県では、このたびの「改訂 アグロピア21」を指針としながら、効果的な施策や的確な指導を通じてそれらを支援し、かけがえのない農業・農村を将来に引き継ぐため積極的に取り組んでいきます。

朝よ
光と闇のせめぎあいのなか
飴色の世界の蓋を
おもむろにあけて
闇の稜線を越える
かの大詩人は言う
へそれは神の生誕の日へと
日のめぐり月のめぐり
環の周期の位相であつても
常に 古い風を捨てて
朝よ
未知なるものの救いのために
生誕する



PIN UP
TOYAMA
ピンナップとやま

大島町

◎大島町の概要

庄川扇状地の一角を占める大島町は、高岡市に隣接するベツトタウンとして急成長。県内でもトップクラスの人口増加率を示している。また、一昨年、絵本文化の発信拠点として、大島町絵本館がオープン。絵本を通じた「夢創造空間」を演出する。なお、この地の歴史は古く、「古事記には白鳥伝説の「鳥取の里」として記されている。



▲瀧田秀成さん

絵本コロ・アルカディア

大島町の顔としてすっかり馴染みになった大島町絵本館。この絵本館のホールを拠点に活動する合唱団が、「絵本コロ・アルカディア」である。

「レパートリーはクラシックからポピュラーまで様々です。また、絵本館専属の合唱団なので、絵本にちなんだ童謡などもよく歌うんですよ」と、代表の瀧田秀成さん。団員は現在十八名で、年齢層は二十代から六十代までと幅広い。合唱団の指揮を務めているのは、洗足学園魚津短期大学教授で富山市の「とやまの森歌劇団」代表としても知られる森野信生さん。「八月の二周年記念コンサートでは、とやまの森歌劇団の皆さんと共演するんです。合唱だけでなく、オペラの身振りが入るので、団員はみんな戸惑いながらも楽しみにしているようです」と瀧田さんは目を細める。今は、本

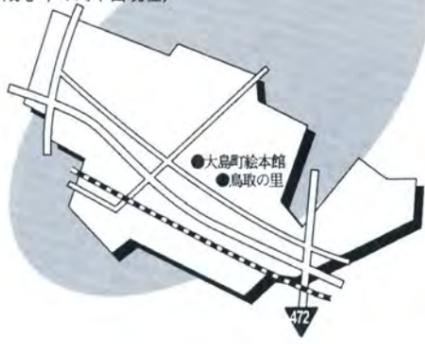
コーラスの理想 郷を求めて

番に向けて週一度の練習に余念がない。「いろいろな性格の人が、その曲に対して様々な想いを持つ一つのハーモニーを響かせていく。これが合唱の魅力でしょうね。ちなみに、合唱団名の「コロ・アルカディア」とは「コーラスの理想郷」の意味。コンサート当日、大島町絵本館は訪れた人々に感動を与える理想郷となることだろう。



▲絵本コロ・アルカディアの練習風景

人口：8,756人
面積：7.96km²
(平成8年4月1日現在)



“緑の四角い空間”でニュースポーツを

大島グリーンスクエア

今、若者に大人気のストリートバスケットやフットサル。そんなニュースポーツを気軽に楽しめるのが、大島町弓道場の隣に位置する大島グリーンスクエアである。

「昨年六月のオープン以来、多くの方々にご利用いただいています」と大島町教育委員会スポーツ振興係の松長昭男さん。ちなみに、フットサルとはブラジル生まれのミニサッカーのこと。「フットサル場は、透水性の人工芝を使用しているため、雨が降ってもプレーできます。また、砂入りなので足腰にやさしいんですよ」。ストリートバスケットは別名「3オン3」とも呼ばれ、一チーム三人で行うミニバスケット。場所を取らないことに加え、最近のバスケットにも乗って人気急上昇のスポーツだ。「昨年十月、小・中学生によるフットサルやストリートバスケットの大会「大島スポーツフェスタ」を開催し、とても盛り上がりました。このイベントは毎年続けていく予定です」。

無料なので町外の方々にも気軽に利用してもらいたいという松長さん。余暇時間が多くなりつつある今日、日頃の運動不足を大島グリーンスクエアで解消してみたいかがらう。



▲3オン3を楽しむ子どもたち

手づくり紙芝居で生まれ変わる故郷の民話

大島町こでまりの会



▲大島町こでまりの会のみなさん

町に伝わる民話、昔話を紙芝居で伝えていきたいと集まったのが、「大島町こでまりの会」である。

「町のボランティアセンターが主催する紙芝居制作ボランティア専門講座の受講仲間をつくったんですよ」と、代表の棚元静江さん。現在、会は四十代から六十代の女性十名からなる。紙芝居の制作はまず資料集めから開始。「題材によっては、史跡や文献の念入りな調査が必要ですが、自分たちの郷土の勉強にもなるので楽しいですよ」と棚元さん。集めた資料をもとにメンバー全員で全体構成を考え、子供たちにも分かりやすい文章に仕上げていく。もちろん絵も全て自分たちで描く。「メンバーには、かつて学校の先生だった人や、美術関係に詳しい人もいます。そんな人たちの豊かな経験を活かせるのが大きいですね」。できあがった紙芝居は町の公民館などで上演。子供だけでなく、お年寄りにも好評を博している。



▲棚元静江さん

一つ一つの花が集まって一つの大きな花となる「こでまりの花」。この花のように一人一人が自分を大切にしながらも全体が一つになれるようにと名付けて出発したこの会の活動も、今年で三年目に入る。これからも、紙芝居を通じて郷土の民話とともに手づくりの温もりを伝え続けていくことだろう。



▲紙芝居の制作光景

紙芝居の始まり始まりノ



▶砂入り人工芝のフットサル場



▲松長昭男さん

第13回全国都市緑化とやまフェア 彩りとやま緑化祭'96

全体会期 平成8年4月20日(土)～9月1日(日)
提 唱 建設省
主 催 富山県・高岡市・砺波市・財都市緑化基金

'96 太閤山あじさい祭り

6月15日(土)～7月11日(日)

会 場 県民公園太閤山ランド
(小杉町黒河)

開場時間 9:00～17:00

入 場 料 無料

- 見どころ
- 50品種2万株のアジサイが咲き誇る「あじさい園」
 - 世界と日本のカタツムリが大集合の「MY・マイランド」
 - みつばちキャラバン隊(県出展パビリオン)のテーマ館「花・人・くらし彩館」「花のファンタジーカー」等の展示
 - 県華道連合会加盟15流派が大作を展示する「いけばなふれあいフェスタ」
 - 「辺見えみり野外コンサート」(6/22)「アニメキャラクターショー」(6/16、7/7)等多彩な催事を開催

'96 頼成の森花しょうぶ祭り

6月21日(金)～6月30日(日)

会 場 県民公園頼成の森
(砺波市頼成)

開場時間 9:00～17:00

入 場 料 無料

- 見どころ
- 全国最大規模の水生植物園に咲く580品種70万株のハナショウブ
 - ハナショウブのすべてがわかる特設展示施設「アイリスワールド花しょうぶ館」
 - 「NHK趣味の園芸講座」と「ハナショウブ技術講習会」(6/23)
 - その他森の中での「自然観察会」(6/22、23)や「森林浴オリエンテーリング」(6/29、30)、俳句、絵画、写真等の講座やコンテストなどを開催

問合せ

全国都市緑化とやまフェア事務局
☎0766-25-1510

今月は、6月に開催する2会場の見どころを紹介します。

ESSAY

森

でかけよう!

富山県ナチュラリスト 大野博美



木々をくぐりぬけると薫る風に若葉の甘い香りが漂う。ひんやりとした森の新鮮な空気を胸いっぱい吸い込み、梢をわたる野鳥のさえずりに想いを巡らせ、足元に咲く名も知らぬ可憐な花たちと語りあう。木洩日のグリーンシャワーを浴び、時には遠くに山々を眺め、坂道でフワッと温かくなった土を踏みしめてみる、そんな「森の時間」。私はすっかり爽やかな気分になる。

幼いときに気持ちよくわくわくさせ、一緒に遊んでくれた「生き物」たちや「自然」は、大人になっても気になる存在である。そんな小さな気掛かりが、身近な自然環境の変化や危機を察知させてくれる。

日頃から、身の回りの自然に目を向けてみよう。自然とふれあうなかで、しくみを知り、人とのつながりに気づき、大切に感じる気持ちと、豊かさに感謝する心を育みたい。たとえできることは小さくても、暮らしを見直すことで「共存できる上手な付き合い方」を身につけたい。私たちも自然の一部なのですから。

ありのままに自然を見ることによって、新しい発見があるはず。日を変え、時間を変え野山に出かけ、時には静かに歩き、野鳥の姿を追いかけ、からだ全体をアンテナにして、自然からのメッセージをキャッチしてみよう。自然の中でみつけた不思議なもの、生き物のおもしろい行動などから「なぜだろう?」という疑問がわいてくる。それこそが大切な宝物。もつともつと自然の中で思い切り自由に動き回って、「見て」「聞いて」「さわって」「かいで」「感じて」、五感をフル回転! ところどころからだをたっぷりと開かせたい。



自然が自然のままであることのすばらしさを多くの人々に体感してほしい! それが私の願い。忙しさにまぎれがちですが、時には立ち止まって、自然との出会いに心をときめかせる時間を持つてみませんか。新しい自分との出会いが待っています。

人々を自然の中に案内し、共に感動を分かち合いながら、自然からのメッセージをキャッチするお手伝いをする、それが私たち「ナチュラリスト」です。

「一こころで見なくちゃ、ものごとはよく見えないうつらさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ」
サンテグジュペリ「星の王子様」より

第11回 国民文化祭とやま'96

平成8年9月28日(土)→10月7日(日)



【先取り情報③】

今月は、「富山湾上フェスティバル」の事業概要を紹介します。

富山湾上フェスティバル ようこそふしぎの海廊へ

【日 時】 9月28日(土)・29日(日) 10:00～20:30

【場 所】 富山湾上 富山新港公共埠頭 海王丸パーク

【事業内容】 大型客船「新さくら丸」や海王丸パークを会場とし、だれもが参加できる楽しい企画が満載です。

■新さくら丸

- ・環日本海アニメ映画祭
- ・船上オリエンテーリング & クルージング
- ・ダンスフェスティバル



■海王丸パーク

- ・海王丸セールデザインコンテスト
- ・太鼓、民俗芸能競演ステージ
- ・富山湾上歌謡祭(ゲスト聖川湧)
- ・日本海コンサート(ゲスト林英哲)他

■日本海交流センター

・海と文化の講演会他(ゲスト堀江謙一)

■公共埠頭

・巡視船えちご体験航海 他



現在、海王丸のセールデザイン及び歌謡祭の出演者、講演会、体験航海等の参加者を募集しています。詳しくは下記までお問い合わせください。

問合せ先

第11回国民文化祭富山県実行委員会事務局
☎0764-44-2184

県からのお知らせ

募集

「富山県民の船」 参加者募集

県では9月開催の国民文化祭で来航する大型客船「新さくら丸」を利用して「富山県民の船」および「富山県ボランティアの船」を実施します。

富山県民の船
9月23日に神戸港で乗船していただき、瀬戸内海、関門海峡、日本海をクルーズし9月26日に富山新港へ到着します。3泊4日のゆとりある船旅を通じて、文化交流や各種研修を行い、文化活動の楽しさなどが体験できます。

募集定員 約250名
対象者 富山県内に在住し、文化活動に興味のある方で心身共に健康で規律ある団体行動ができる方。ただし、3歳未満の幼児は除く。

参加者負担金 大人20,000円、小人5,000円
(富山から神戸までの陸路の交通費は別途個人負担)
応募書類 参加申込書、健康診断書
(参加申込書は県庁および各総合庁舎にあります。)

富山県ボランティアの船
9月30日に富山新港で乗船していただき、日本海、関門海峡、瀬戸内海をクルーズし10月3日に神戸港へ到着します。3泊4日の船旅のなかで災害救助活動や社会福祉活動に関する研修を行い、各種ボランティア活動の充実に役立てます。

募集定員 約170名
対象者 富山県内に在住し、ボランティア活動に関心のある方で心身共に健康で規律ある団体行動ができる方。

参加者負担金 大人20,000円
(神戸から富山までの陸路の交通費は別途個人負担)
応募書類 参加申込書、健康診断書

開催期間 5月25日(土)～7月7日(日)
開館時間 午前9時30分～午後5時(会期中無休)
観覧料 一般 850(650)円
高校・大学生 600(450)円
小・中学生 350(300)円
()内は20人以上の団体料金

問合せ 県立近代美術館 ☎0764-217-1111

「21世紀に伝えるふるさとこやま」ビデオコンテスト」作品募集

映像を通してふるさとこやまの良さや美しさを再発見してみませんか。優秀作品は、ふるさと映像として保存し、広く県民に公開します。

募集期間 7月1日(月)～8月31日(土)
部門 ふるさとの自然 ふるさとの町並み
ふるさとの祭り ふるさとの心
作品 時間3分以内
問合せ 富山県生涯学習カレッジ映像センター ☎0764-3216420

「冒険こども王国」開催

県では、子どもが健やかに成長するために、遊びがいかんにか大切に県民の皆さんに認識してもらおうことを目的

みなさんの相談窓口

- 県政について**
県民相談室 富山市新総曲輪1-7(県庁内) ☎(0764)31-4111(代) 31-3131(県民相談電話)
- 高岡地方県民相談室 高岡市赤祖父211(総合庁舎内) ☎(0766)21-9411(代)
- 魚津地方県民相談室 魚津市新宿10-7(総合庁舎内) ☎(0765)24-5311(代)
- 砺波地方県民相談室 砺波市幸町1-7(総合庁舎内) ☎(0763)33-5151(代)

- 物価ダイヤル**
物価に関する苦情や相談があればお気軽にお電話ください。☎(0120)16-7400(県庁県民生活課内)
- 消費生活については**
消費生活センター
富山市安住町7-18 安住町第一生命ビル内(一般相談は) ☎(0764)32-9233
(金融相談は) ☎(0764)32-3252
消費生活センター高岡支所 高岡市本丸町7-1 本丸会館内 ☎(0766)25-2777
- 交通事故については**
富山県交通事故相談所東別館1階 ☎(0764)31-4111 内4400
- 相談110番**
家庭問題・悪質商法・覚せい剤など、どんな相談にも応じます。☎(0764)42-0110
- シルバー110番**
高齢者や家族の心配ごと、悩みごとに富山県高齢者総合相談センター
富山市舟橋南町5-14 社会福祉会館内 ☎(0764)41-4111
- よい子の育児電話相談**
子育てに関して心配や悩みはありませんか。どんなことでもお気軽にお電話ください。☎(0764)33-4150(県庁生涯学習室内)

県からのホットニュース

- テレビ広報**
■チューリップテレビ 毎週土曜日 AM7:00～7:15 「ふるさとトーク」
- 富山テレビ 毎週日曜日 AM9:00～9:30 「112万人のひろばクイズ/フォークス・イン」
- 北日本放送 毎週日曜日 AM11:00～11:30 「こんにち富山県です」
6/2 自遊に学ぶ
6/9 自然と人をつなぐボランティア
6/16 草の根 国際交流 助っ人先生頑張る
6/23 我がまちふるさと自慢 ～黒部市～
6/30 もう一つの立山
- ラジオ広報**
■FMとやま「ふれあいホットライン」
県内各地からホットな話題をクリアなサウンドでお届けします。毎週月～金曜日 AM9:50～9:55
- 新聞広報**
■北日本、富山、読売、北陸中日、朝日、毎日
毎月第2、最終土曜日
「県からのお知らせ」

平成8年 7月 街頭献血日程

日曜日	献血場所	時間
4日	福野町役場前	12:00～16:00
7日	小杉バスコ前	10:00～16:30
12日	朝日町役場前 朝日町職工会館前	9:30～12:00 13:00～16:00
21日	コスモタウンジャスコ砺波店前 富山西武デパート前	10:00～16:00 10:00～16:30
23日	黒部市役所前	9:30～12:00
28日	ハッピータウン氷見店前	10:00～16:00

※都合により変更する場合がありますので、当日の新聞・テレビの街頭献血案内等でご確認ください。
◎**マリエとやま6階の献血ルーム**では、月曜日を除く毎日(年末年始、マリエ休館日を除く)献血を受け付けています。
受付時間 全血献血10:00～12:30 14:00～16:00
成分献血10:00～12:00 14:00～17:30
◎**マリエ献血ルーム**(TEL. 0764-45-4500)
血液センター (TEL. 0764-51-5555)

問合せ・申込み 〒930-80 富山市新総曲輪1番7号
県庁県民生活課国民文化祭推進班
☎0764-4413459 0764-4413477

県営住宅の空家への入居者募集のご案内

富山・高岡・太閤山の県営住宅については、現在、入居申込を随時に受け付け、空家が発生する都度、申込み順に入居していただいております。

申込書は、富山県住宅供給公社及び県庁建築住宅課等に配付しております。
問合せ 富山県住宅供給公社 ☎0764-3215132
県庁建築住宅課 ☎0764-4413358

お知らせ

健康保険山の家開設

富山県では、今年も下記の「健康保険山の家」を開設します。あなたも大自然の雄大な、厳しさ、やさしさにふれてみませんか。

宿泊利用券を山の家を持参されたときは、下記の料金で利用することが出来ます。
(1泊2食)
利用できる人
政府管掌・組合管掌健康保険被保険者とその被扶養者

山の家	連絡先	期間	負担金
雷鳥荘	0764-82-1238	6/1～11/25	5,500円
一の越山荘	0764-33-9788	6/1～11/10	6,000円
スゴ乗鞍小屋	0764-82-1917	7/1～9/25	6,000円
太郎平小屋	0764-82-1917	6/1～10/25	6,000円
薬師沢小屋	0764-82-1917	7/1～10/10	6,000円
高天原山荘	0764-82-1917	7/1～9/25	6,000円

利用手続き
利用券をご希望の方は、山の家名、利用日、保険者証の記号番号もしくは厚生年金の記号番号、氏名を記入した用紙を管轄の社会保険事務所に提出してください。
なお、宿泊予約は直接、山の家にてください。
問合せ 県庁保険課 ☎0764-3213297

リカレント学習講座開催のお知らせ

県民生涯学習カレッジでは、社会人・職業人のためにリカレント学習講座を開きます。皆さん、ふるってご参加下さい。

講座内容 ファッション産業の情報と実務(富山デザイン専門学校)・薬事研究(薬事研究所)・和漢薬に未来はあるか(富山医科大学)・健康創造開発(富山健康科学専門学校)・マルチメディアタイトル制作(マルチメディア情報センター)・国際理解のために(富山国際大学)・技術者のための植物科学(富山県立大学)・栄養士実力養成(富山女子短期大学)・インターネットワールドへの情報発信(富山大学)・原形制作(高岡短期大学)

募集定員 各25名
開講期間・募集期間等の問合せ 富山県生涯学習カレッジ学習振興課 ☎0764-418635
または、各講座実施機関

野外で薬草を勉強する会

富山県薬用植物指導センターでは、広く県民の皆さんに薬草に親しんでいただくため、次のとおり「野外で薬草を勉強する会」を開催します。皆さんの参加をお待ちしております。

日時 7月26日(金) 雨天決行
受付 午前9時～9時30分
散策及び説明 午前9時30分～午後3時30分
場所 大沢野町猿倉山および御前山周辺
内容 野外で散策し薬草の学習を行う。
講師 氷見市海浜植物園長 吉崎正雄氏

参加料 無料
携帯品 筆記用具・昼食・雨具等
集合場所 猿倉山森林公園管理棟前
交通機関利用の方は笹津バス停
応募方法 富山県薬用植物指導センターに電話でお申し込みください。☎0764-7210801

「戦時下の暮らし」展示室」の開設について

戦後50周年を記念して昨年開催された「戦時下の暮らし」に際し、広く県民の皆様方から寄せられた生活用品、遺品等のうち、寄贈いただいたものを常設展示していただきます。

戦争の悲惨さ、恐ろしさを伝える貴重な資料を通じ、改めて平和の尊さについて考えましょう。
開館時間 午前9時～午後5時
場所 富山県民会館 403号室
入場料 無料
問合せ 富山県戦後50周年記念事業委員会(県庁社会福祉課内) ☎0764-4413199

県立近代美術館「杉山寧一素描と本画」展

杉山寧一は清澄な気品をそなえた独自の画業で今日の日本画の展開に大きく貢献した日本画家です。
本展では、的確な描写力をしめす素描作品約180点を展示するとともに、初期の代表作から近年までの本制作約10点を紹介します。

啓発

「ごみの減量化とリサイクルを

5月30日から6月5日までは「ごみ減量化推進週間」です。ごみの発生を抑え、リサイクルを進めることは環境への負荷を少なくし、限りある地球の資源を有効に活用することになります。

新聞、紙、びんや空き缶などは資源ごみとして分別し、集団回収や市町村収集日にあわせて出して、資源回収ルートに乗せましょう。
問合せ 県庁環境政策課 ☎0764-4413140

暴走族などの追放にご協力を

例年、夏に向けて、交通妨害や騒音を引き起こす暴走族などが多く出没します。
警察では、暴走族追放「三不運動」(しない、させない、見に行かない)を展開し、暴走族などを厳しく取り締まっています。暴走行為や暴走族のたまり場、不正改造車両などを見かけたときは、最寄りの警察署へ連絡しましょう。

また、地域や職場でも、暴走族追放の気運を盛り上げていきたいと思います。

とやまの祭事記

六月



初夏の夜空を紅色に染める

夜高行燈 あんどん

(庄川町)

六月の第一土曜日・日曜日、庄川町は祭り一色となる。夜空を彩る花火、川面に揺れる流し灯籠、庄川音頭の艶やかな町流し……。なかでも最も伝統を誇るのが、夜高行燈の町練りである。

祭り当日、鉢伏山山頂で灯された御神火が若者たちの掲げる松明に移され庄川河川敷に運ばれる。そこには、布袋様や龍、宝船などをかたどった大小様々の行燈が集い、御神火がそれらに分けられると、いよいよ町練りの始まりである。「ヨイヤサ、ヨイヤサ」の掛け声も勇ましく練り回される行燈。そして、あたりに響きわたる太鼓の音や夜高歌。四、五メートルにもなる大行燈をはじめ、中、小の行燈が初夏の夜空を紅色に染める。夜も更けて祭りが最高潮に達したときに見られる各町自慢の行燈の「合わせ」（ぶつけ合い）は壮観。夜空に浮かぶ行燈が激しく揺れ、周囲からは歓声が沸き起こる。

ところで、夜高とは、夜高く揚げるもの、の意。砺波平野の各地で見られるが、福野町のもを除いて、田植え終了の祝い（田祭り）をその起源とする。当初は、トツベ（豆腐）行燈と呼ばれる小行燈を手に水田を巡り、虫除けと豊年満作を祈ったとされる。庄川町では昭和初期に金屋・青島の若い衆が大行燈に飾りをつけて村を練り歩くようになったのが、今日の大型化の始まりである。

夜空にひととき映える夜高行燈の灯。それを見つめる人々の耳には、太鼓の音にまじり、夏の便りが聞こえてくるのかもしれない。

暮らしの

アドバイス



主婦の心理を巧みに利用

— 増えている内職商法 —

Q チラシを配ってブランド品の注文をとる特約店にならないかと電話で勧誘がありました。特約店になるためには四十万円必要ですが、注文をとればマージンが入るので簡単にともが取れるといいです。信用できるのでしょうか。

A センターでは特定の業者の信用性についての判断はできませんが、内職商法と呼ばれているこのような勧誘の問題点を説明したところ、「もう一度良く考えてみる」とのことでした。

この相談の場合、仮にマージンが5%とすると、月五万円稼ぐためには百万円もの売り上げが必要となります。しかも、お客がチラシを見て特約店を通さずに本部へ直接注文した場合は、特約店では確かめるすべがありません。本当にこれで「簡単にともが取れる」と言えるのでしょうか。

最近、センターには内職に関する主婦からの相談が増えています。他にもあくせさりー工芸内職、宛名書内職、ワープロ内職等さまざまです。しかし、中には内職を行うための技能の習得といいながら、高価な教材や機器を購入させることを本来の目的とする業者もいます。また、前もって、保証金、登録料、講習料などの名目でお金を徴収する業者も注意が必要です。

主婦にとって自宅のできる仕事はとても魅力があります。そんな主婦の心理を悪徳業者は巧みに商売に利用しています。誰にでもできる簡単な仕事で高収入が得られるといううまい話はありません。仕事の内容や条件をよく確かめてから契約しましょう。

相談は、県消費生活センター、電話0764(32)9233、高岡支所、電話0766(25)2777

編集後記

小学生名人の中平君には、ぜひ一流棋士を目指して頑張ってもらいたい。ところで十数年前、小学生名人となった羽生善治の横で、「将来が楽しみですな」と笑顔で語っていたのが、当時天才の名を欲しままにしていた谷川浩司。だが、まさか自分が七タイトルの最後の砦となつてこの少年と戦うことになるとは予想だにしないのだ。さすがの天才棋士も人の可能性までは読み切れなかったのである。(K)

自分が住む地区にも昔からの村祭がある。神輿や笛、太鼓、子供神輿も賑やかに、旗を持った小学生が町内を巡る。地下足袋を履いた天狗のような「バツ」が子供たちを追いかけ回す。「バツ」は小学校の授業中教室へ入ってきたこともあった。子供の頃のそんな思い出が今も鮮やかに頭に浮かんでくるが、そのような地元祭りの雰囲気は「とやまの祭事記」で伝えていきたい。(A)

今回取材で訪れた大島町。その中の一つ、絵本コロ・アルカディアで伺ったお話は、音楽が趣味の私にとっては非常に興味深く、和気あいあいとした雰囲気の中に響きわたる歌声には、何ともいえない心地よさを感じた。取材することによって知らず知らずのうちにその町に興味を持ち始める。その土地の温かさを一人でも多くの人に伝えられたらと思う。(A)

今月号で掲載したPIN UP TOYAMAの写真を選定で5名の方にワイド六ツ切(25×18センチ)でプレゼントします。希望される方は、官製ハガキで下記の様式でお申し込みください。平成8年7月24日消印有効です。

富山県広報課 写真プレゼント 6月号係あて	930 80



6月5日 環境の日

6月は環境月間です

6月5日は「環境の日」、6月は「環境月間」です。

月間中は、環境保全についての理解と関心を深め、積極的に環境保全活動を行うきっかけとなるよう、「地球とはもつとなかよくなるはず」を統一テーマに、各種の行事が全国的に展開されます。

快適で恵み豊かな環境を守っていくためには、一人ひとりの「環境にやさしい行動」の積み重ねが重要です。県民の皆さんも、この機会に環境を守るために自分たちのできることから始めましょう。

地球とはもつとなかよくなるはず



環境ポスター展示

県内の小中学生の環境月間ポスター優秀作品の展示

- 6月6日～18日 富山大和
- 6月19日～24日 ジャスコ高岡店
- 6月25日～7月10日 自然博物園ねいの里

電気自動車試乗会

県が導入した環境にやさしい電気自動車の試乗会

- 6月15日 太閤山ランド

一日環境大学校

リサイクル社会の建設と市民の役割に関する講演会

- 6月28日 黒部国際文化センター
(講師 早稲田大学教授 寄本勝美氏)